

平成20年度業務評価委員会議事要旨

1. 開催日時：平成21年3月3日（火） 13：30～16：45
2. 開催場所：独立行政法人農林水産消費安全技術センター本部大会議室
（さいたま市中央区新都心2-1さいたま新都心合同庁舎検査棟）
3. 出席委員：
 - 委員長
吉羽 雅昭 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事長
 - 外部委員
池田 誠 財団法人日本肥糧検定協会 理事長
岩田 三代 日本経済新聞社 論説委員（兼）編集委員
梅津 憲治 大塚化学ホールディングス株式会社 専務取締役
（日本農薬学会 前会長）
大木 美智子 消費科学連合会 会長
蔵本 一也 社団法人消費者関連専門家会議 理事長
小杉 直輝 有限会社小杉食品技術事務所 代表取締役
齋藤 文一 財団法人日本食品分析センター 理事長
田島 眞 実践女子大学 生活科学部 教授
林 徹 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
食品総合研究所 所長
矢野 秀雄 独立行政法人家畜改良センター 理事長
 - 内部委員
戸谷 亨 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事
杉浦 勝明 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事
阪本 剛 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事
本多 一郎 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 監事
碓井 憲男 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 監事(非常勤)
 - 事務局
川村 和彦 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 企画調整部長
竹澤 忠文 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 総務部長
三佐和芳郎 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 消費安全情報部長
河本 幸子 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 規格検査部長
植木 隆 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 表示監視部長
片山 信浩 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 肥飼料安全検査部長
牛谷 勝則 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 農薬検査部長

4. 議事概要：

(1) 独立行政法人農林水産消費安全技術センターの業務概要について

外部委員	第2期中期目標の期間が平成18年4月1日から平成23年3月までの5カ年となっているが、FAMICが発足したのは平成19年4月1日であり、正しくは平成19年4月1日からではないのか。
事務局	ご指摘のとおりFAMICが発足したのは平成19年4月1日であるが、現行の中期目標期間は統合前の18年度から始まっており、中期目標期間は平成18年4月1日からの5カ年である。組織としての評価は、初めの1年は統合前の組織それぞれで、残る4年間はFAMICとして受けることになる。
外部委員	中期計画において検査に従事する者の割合を平成18年1月1日を基準として2ポイント程度向上させるとなっているが、平成18年1月1日時点での割合はどの程度であったのか。また、今年度末時点ではどの程度を見込んでいるのか。
事務局	総務部門を大きく削減したことにより、検査に従事する職員の割合が上昇した。総務部門が占める割合は以前は18%程度であったが、現在では15%程度まで低下しており、残りのほとんどが検査に従事する職員である。総務部門の職員数は約100名程度である。
外部委員	平成20年度計画における予算では神戸庁舎の売却収入として3億8千万円を計上しているが、中期計画の予算では9億6千万円を計上している。この2つの数字はどのように考えればよいのか。また、新庁舎の土地購入費はいくらぐらいであったのか。
事務局	中期計画上の9億6千万円には庁舎の解体・撤去費用を含んでいる。新庁舎は約4億円で土地を購入し、約22億円かけて建築したが、全額国から補助されたわけではなく、建築費の一部として旧庁舎の売却費のうち3億8千万円を充当することとしている。なお、旧庁舎は歴史的建造物であることから現地で保存の要請があり、現在神戸市が買い取る方向で調整している。
外部委員	年度計画中の「人事に関する計画」において、職員の労働安全管理に関することが記載されていないが、どのようなことをされているのか。計画の記載の多くは効率化に関する事項で、労働安全管理に関する記述がない。
事務局	毎月安全衛生委員会を開催しているほか、産業医とも連携するなど職員の安全を確保するための体制を整備している。中期計画等は対外的に公表するもので、主に効率化と提供するサービスの質の向上について記載しており、職員の福利厚生など内部的な事項については記載していないが、適切に対応

	している。
外部委員	年度計画にPIO-NETを設置し、国民生活センターと情報の共有化を図ると記載しているが、定期的な打合せなどをされているのか。
事務局	現在、情報の共有化をどのように図っていくかを検討中であり、データベースから取り出した情報を部内で回覧しているが、定期的な会議を開催する段階には至っていない。また、当方から情報を提供する方法について現在、国民生活センターと協議を行っているところである。
内部委員	国民生活センターとの連携は一昨年に政府が策定した整理合理化計画に明記された事項であり、情報の共有化のほか、互いに講師を派遣し合うなど連携を深めていきたいと考えている。
外部委員	広報誌の発行数が6,500部、メールマガジンの発信先が4,000件とのことであるが、幅広く情報を提供していくとの観点からすると数が少ないと感じる。目標をどのように設定されているのか。
事務局	中期計画上では中期目標期間中に配信先を10%増加することとなっており、期間の半ばである現時点ですでにその目標は達成している。今後も配信先を増加させるよう、取り組んでいきたい。
事務局	正確な数字を申し上げると昨年の配信先は4,200件であったが、先月の段階では4,800件となっている。
内部委員	食品安全委員会でもメールマガジンの配信先は1万件に到達していないことを考えると、現状から大幅に配信先を増やすことは難しいと思う。しかしながら、メールマガジンの配信先をできる限り増加させたいと考えている。
外部委員	行政機関ではさまざまな情報の提供を図っているが、一般の方々にはなかなか読んでもらえないのが実情である。こうした方々に情報を伝える手段としてメールマガジンは非常に有効な手段であると思う。
外部委員	3法人が統合したことに伴い、統合メリットを発揮することが求められていると思うが、具体的にどのような効率化を図っているのか。また、地方組織のうち大阪及び岡山両事務所の神戸センターへの集約化、小樽事務所の廃止については年度計画に記載されているが、福岡及び門司の事務所については統合する計画はないのか。
事務局	統合に伴う総務部門の集約化等により、中期目標期間が終了する22年度ま

での4年間で約1億5千万円程度削減することとしている。具体的には、公用車の廃止や人員の削減のほか、購入する分析機器を厳選するなどの取組を行っている。なお、福岡及び門司の事務所については現在のところ統合する計画はない。

外部委員 福岡センターについては統合の計画がないとのことだが、門司事務所を残す理由は何か。

事務局 神戸センターについては現庁舎の耐震性に問題があったことから、移転費が国から措置された。また、小樽事務所についても現在入居している合同庁舎が、耐震性の問題から立て替えることとなったため、廃止して札幌に移転することとしたところである。しかしながら、福岡センター庁舎には耐震性などの問題はなく、福岡センターの敷地は狭く門司事務所に相当するスペースを確保することが難しいことから現在のところ2つの事務所を統合することは考えていない。

外部委員 年度計画においていくつかの業務をアウトソーシングすると記載されているが、アウトソーシングをすると本当に経費が削減できるか。職員が実施する場合と比べどの程度削減できるのか、積算はしているのか。

事務局 アウトソーシングするにあたっては、積算をし経費を削減できることを確認した上で実施している。しかしながら、アウトソーシングの検討対象に上げているホームページの運営管理については常時内容の更新を行う必要があり、本当に経費を削減できるのかについて不明な点も多く、現在検討中である。

外部委員 アウトソーシングを実施する際には、一般競争入札で業者を選定することになるが、毎年受注する業者が変更になれば逆に非効率になる業務もあるのではないかと。このことについてどのように考えているのか。

事務局 基本的にアウトソーシングが可能な業務は、広報誌やアンケートの発送やメールマガジンの配信など比較的専門性の低い業務が該当すると考えている。一方で、「アウトソーシングを可能な限り実施せよ」と政府が方針を示していることから、農林水産省の指示に従い、いくつかの業務をアウトソーシングの対象として列記している。

内部委員 ご指摘のとおり、一般競争入札では必ずしも効率化が図れない場合もあると考えている。一方で政府が策定した整理合理化計画において随意契約の見直し規定されていることから、随意契約を実施する際には対外的に説明ができるよう、整理をしておく必要があると考えている。

外部委員	独立行政法人には一般競争入札やアウトソーシングを実施することが社会的に求められているが、その一方で、一般競争入札やアウトソーシングでは必ずしも効率化できない場合もあり、独立行政法人を運営する立場からすると非常に大きな問題であると認識している。
外部委員	社会的な大きな流れとして、一般競争入札に移行していくことは良いことだと思うが、時間や手間を考慮すると一般競争入札では非効率な場合もあると思う。中期計画等で、予算、収支計画及び資金計画を記載されているが、これらはどのような関係にあるのか。また、庁舎の借料や修繕費はどのように措置されているのか。
事務局	予算、収支計画及び資金計画の記載については、独立行政法人での様式に従って記載している。農薬検査部、神戸センター及び福岡センターの庁舎は当法人で所有している庁舎である。さいたま本部を含めた残りは合同庁舎に入居しているが、独立行政法人であることから借料は支払っていないものの、専有面積に応じて光熱費等の管理費は支払っている。
外部委員	新たな技術や進展する国際化に対応するためには、ある程度、業務経費を確保しておくことが重要だと思う。
事務局	業務経費が約10億円、一般管理費が約7億円となっている。
外部委員	平成18年度に比べ平成20年度の運営費交付金が増えているが、これは組織が統合により大きくなったためなのか。また、諸収入が3倍に増加しているが、これは増加するよう、何か指示があったことによるものなのか。
内部委員	平成18年度については統合前であり、旧農林水産消費技術センター分をベースに記載していたため、平成20年度は増加しているように見えるが、旧2法人分を足し上げた数字と比べると諸収入についてはあまり増減はなく、運営費交付金については減額となっている。自己収入については、増加させるよう、指示があった。
外部委員	計上されている減価償却費が少ないように感じるが、これは分析機器に係る減価償却費のみで、庁舎の償却費は含まれていないと理解してよいか。
事務局	特定独立行政法人に移行した際、単独庁舎や検査設備等については当法人に無償譲渡されており、それら資産の償却費も含んだ金額となっている。

(2) 農林水産省独立行政法人評価委員会の評価結果、平成20年度業務の実施状況、マネジメントレビュー改善指示事項について

外部委員	「任意調査」、「確認調査」、「協力調査」はどのような違いがあるのか。また、マネジメントレビュー改善指示はいつされたのか。
事務局	「立入検査」は法に基づく検査である。一方、「任意調査」は法に基づくものではないが疑義があった場合に実施する調査で、先方の協力が得られない場合には立入検査に切り替えることもある。「確認調査」は改善するよう指示した事項が改善されているか、事後に確認するために行う調査である。「協力調査」は都道府県が実施する調査に協力するものである。マネジメントレビュー改善指示については、平成20年12月1日に全国の所長を参集して開催した会議において理事長から指示があった。
外部委員	昨年、一昨年あたりから内部告発が多くなったと思うが、それに対してどのくらいの頻度で告発に対処されたのか。また、どの程度告発の件数があったのか。
事務局	内部告発は食品表示110番として情報が入ってくる仕組みとなっている。食品表示110番は農林水産省を含め全国56カ所に設置されており、このうち当センターには8カ所設置されている。食品表示110番には全国でおよそ24,000件程度が寄せられているが、表示方法の問い合わせも多い。当センターで受け付けた案件は農林水産省に報告することになっており、農林水産省からの指示に基づき調査を実施するため、統計上の数字は持ち合わせていない。
外部委員	FAMICが実施した調査のうち、疑義があった案件はどのくらいの割合か。
事務局	疑わしい事例については、何らかの対応をすることとしている。平成19年度では調査した195件のうちJAS法に抵触するとして指示公表に至った件数は20数件、平成20年度では二桁の件数が指示公表に至っている。
休憩(15:15~15:25)	
外部委員	平成19事業年度の評価結果について、「s」や「a」などの評価をしたのは誰なのか。
事務局	農林水産省の独立行政法人評価委員会が評価を行った。評価に当たっては、まずFAMICが188の指標について自己評価を行い、それについて評価委員会が評価し、最終的に評価委員会として決定されたものである。

(3) プロジェクトチームの設置について

外部委員	国民に対し、一番影響力があるのはマスコミだと思う。マスコミに対してFAMICの業務を理解してもらうため、どのような活動をされているのか。大学教授や消費者団体など第三者に応援してもらうのも方法の一つだと思う。
事務局	マスコミに対しては専門部署を設置し、適切に対応している。職員は第三者に応援してもらえるよう心がけて業務を遂行している。
外部委員	「前作に使用された農薬の作物残留分析プロジェクトチーム」が行った調査では、前作の作物には残留基準があるが、後作の作物には残留基準がない農薬を対象にしたのか。また、調査結果はすべて一律基準である0.01ppm未満であったとの理解でよいか。
事務局	本調査の主な目的は、ポジティブリストでの一律基準である0.01ppmを超える事例があるかどうかを調べることであるが、一部の作物については後作の作物においても使用が認められている農薬もあり、それについても調査の対象とした。我々が調べた限りでは基準値オーバーはなかった。
外部委員	「効果的な情報提供のためのプロジェクトチーム」が作成を予定している「食品の表示」等の標準テキストは一般にも公開するのか、それとも内部の職員用の資料として作成するのか。
事務局	現在のところ、公表までは想定していないが、当センターの業務についてホームページで公表している資料もあり、資料の内容によってはホームページに掲載が可能なものもあるかもしれない。容量の関係もあるので今後そのことも考慮した上で可能なものは掲載していきたいと考えている。
外部委員	「非食用の事故米穀を利用した食品等の緊急検査プロジェクトチーム」では「事故米」という用語を使用しているが、正しくは「汚染米」と表記すべきではないのか。
事務局	農林水産省からの検査指示に用いられている用語であるため、私どもとしては善し悪しについてコメントする立場にない。
外部委員	「事故米」と表記すべきか「汚染米」と表記すべきかについては、マスコミでも試行錯誤があった。さきほどの意見にあった「いかにマスコミにFAMICの業務内容を伝えるか」、また、「正しく理解してもらうか」については、非常に重要だと思う。そのためには、マスコミ懇談会を開催し、社会的関心の高い情報を提供するとともにFAMICの活動内容を説明し理解を深めてもらう方

法もあるのではないか。ギョーザ、インゲン、メラミンなど、いろいろ食に関する事案があったが、これらについては厚生労働省や警察庁など別の機関で検査しているのか。FAMICは食の安全に関してどのような検査を担当しているか。

事務局 マスコミとは情報交換を図っていきたいと考えており、分析を伴う特別調査を実施する際には、分析方法についてマスコミを対象としたデモンストレーションを実施している。また、今月末には関東農政局が主催するマスコミ懇談会の際、マスコミの方にセンターを視察していただく予定である。FAMICは、JAS法、肥料取締法、農薬取締法、飼料安全法など農林水産省が所管している法律に基づく調査について主に分析に関する事項を担当している。一方、食品衛生法など他省庁が所管している法律に基づく調査にも協力要請があれば協力している。最近では食品の分析に関して警察からの協力要請が多く、できる限り協力をしている。

外部委員 今後、ペットフードの製造工場や輸入業者に対して立入検査をされるとのことだが、その際、「ペットフード検査方法検討プロジェクトチーム」が開発したペットフードの分析方法について業者に対して情報提供するのか。

事務局 本調査は農林水産省の委託事業として実施したもので、開発した分析方法等について農林水産省に報告した。実際にどの項目を基準とするかについては、現在、農林水産省の審議会の中で議論されており、最終的に項目、基準値、検査方法が決定された段階で関係者にわかりやすく情報を提供していきたいと考えている。

外部委員 1つ1つの事件ごとにFAMICがマスコミ関係者を集めて懇切丁寧に説明することは非常に大事なことであり、記者のためになるし、FAMICのためにもなると思う。

外部委員 事故米を使用した食品について、FAMICでは農薬取締法に基づいて検査されたと思うが、一方、厚生労働省でも食品衛生法に基づいて検査し、結果について公表している。FAMICでの検査結果は公表されているのか。

事務局 農林水産省がFAMICの検査結果を含め、事故米に関する一連の調査結果をプレス発表している。

外部委員 農林水産省で調査を行い、良い検査結果を得られたとしても、食の安全に関しては厚生労働省の取組の方が注目されてしまう。

事務局 今回の調査は農林水産省が先行して実施し、例えば埼玉県のある保健所か

らも分析方法について照会があった。社会的な貢献ができたと考えている。

外部委員 厚生労働大臣や農林水産大臣が「安全だ」とコメントしたとしても、マスコミは科学的知見に基づいた公正中立な発表でないとなかなか信用しない。FAMICが実施した検査結果は本省を通じて発表されていると思うが、科学的知見を有しているFAMIC自身が記者会見を開いて、発表してはどうか。

外部委員 検査結果の公表については、社会的影響や政治的な判断も必要となることから本省が仕切らざるを得ず、独法が自ら公表することは難しい。

外部委員 検査結果についてはきちんとチェックされていると思うが、数値の間違いを絶対に起こさないとは言い切れない。場合によっては裁判や訴訟などに発展することが想定されるが、そういったリスクに対応する体制はどうなっているのか。また、社会的にスピード感が求められている中、FAMICは検査時間の短縮を計画に掲げているが、さらに短縮できるのではないかと思う。

外部委員 プロジェクトチームのうち、情報提供のプロジェクトチームについては自発的に設置されたようだが、そのほかについては農林水産省等からの社会的な要請に基づいて実施されていると理解している。肥料の分析方法については現在公定法が定められているが、今後、分析方法の高度化についてプロジェクトチームを設置して検討してほしい。

事務局 数値の間違いについては、公的機関としての信用に関わるものであり、日頃から職員に周知を図っている。昨年には、冷凍食品検査協会での不祥事を受け、農林水産省からの指示で検査体制の再チェックを行った。その結果、調査結果に影響する重大な間違いはなかったものの、軽微な転記ミスは数件あった。また、分析部門ではダブルチェック体制を徹底するため規程類の見直しを行った。

外部委員 誤った結果が外部に出てしまった時は、どう対処されるのか。また、分析をスピードアップし、件数を増やせないのか。

事務局 正直言って、そうした場合の対処については考えていない。分析時間の短縮については、職員は立入検査などいろいろな業務を抱えており、分析業務に専念しているわけではないことから、さらなる短縮はなかなか難しいが、できる限り短縮を図っていきたい。

外部委員 さまざまな業務を抱えていることは理解しているが、調査を受けた機関は結果が出るのを待っており、一日でも早く結果を出すことがサービスの向上につながると思う。

事務局	正確な分析結果を出すためには、一つ一つ決められたプロセスを踏む必要がある。大幅に分析時間を短縮するためには、プロセスを大幅に変更する等の工夫が必要であり、現実的にはなかなか難しいのが実情である。
-----	---

(4) 各委員からのコメント

外部委員	異なる機関の統合では、すぐに内部の一体化を図ることはなかなか難しい。そういった意味では「スタッフ制の導入」や「プロジェクトチームの設置」などの取組をされていることは非常に良いことだと思う。また、業務費の確保は非常に大事であり、必要に応じて農林水産省に要求してはどうか。
------	--

外部委員	食の安全に対する関心が高まっているので、FAMICの存在意義をもっとアピールしていくことが大事だと思う。業務の効率化については、事務所の統廃合などに取り組まれている。今後も自分なりのビジョンを持って、良い意味での効率化に努めてほしい。
------	---

外部委員	農林水産省評価委員会が「A」と評価したが、私もFAMICは適切に業務を実施していると思っている。検査結果の公表については、なかなか難しい問題もあるだろうが、国民の税金を使っているのでFAMICの存在意義も含め、もっとPRに力を入れるべきである。
------	--

外部委員	先日、調査研究報告書をいただいた。内容を見るとしっかり取り組まれていると感じたが、同じ組織でありながら各部門ごとに報告書の仕様が異なっていることに違和感を感じた。今後は同じ組織として仕様を統一すべきである。
------	---

外部委員	同じ独法である国民生活センターや製品評価技術基盤機構との連携をもっと深めて行ってほしい。それらの法人や消費者相談員の方々は契約などについてはかなりの知識をお持ちであるが、食の安全に関する知識は少ない。講師派遣等を通じて食の安全についてもっとアピールして行ってほしい。
------	---

外部委員	食品には大小さまざまなメーカーがあるが、小規模のメーカーはFAMICの存在を知らない。講習会の開催などの取組はされているが、小規模のメーカーにも存在を知ってもらえるよう、PRしていく必要がある。偽装表示事件が起こるとメーカーの責任が問われるが、流通側にも責任の一端があると思う。偽装表示問題を考える際にはこうした実態も含めて考えていなければならない。
------	---

外部委員	以前に比べると、ずいぶんシステムチックな運営をされているように感じる。検査分析についても新たな分野に取り組みされており、人材の育成が非常に重要であると思う。
外部委員	分析技術は日進月歩であり、そうしたことにも対応できるよう、研修の充実をしていってほしい。消費者庁の設置が国会で検討され、早ければ10月にも設置されると聞いている。設置されればFAMICにも何らかの影響はあると思うが、消費者庁の設置によりFAMICがより一層発展できるよう、取り組んでいってほしい。
外部委員	FAMICなどの独法は社会的な認知度が低いと思う。個々の独法の社会的な認知度を上げることは大きな課題であり、我々としても考えていかなければならない課題だと思っている。
外部委員	独立行政法人は国民、市民から存在意義を認めてもらう必要があると思っている。国民、市民から認めもらえるよう、努力いただきたい。

以 上